



佐渡を世界遺産に

# 世界文化遺産登録に向けて

## 佐渡の金銀山史を彩る人々

○大久保長安（1545〜1613）

甲斐国（現在の山梨県）武田家の猿楽師大蔵太夫の次男として生まれ、名を藤十郎としました。武田家に仕えたが、武田家の滅亡後、徳川家康の家臣となり、大久保姓を与えられました。慶長5年（1600）石見銀山奉行、同8年（1603）佐渡奉行・所務奉行（のちの勘定奉行）、同11年（1606）伊豆金銀山奉行も兼ねて、「天下の総代官」といわれ、徳川



◆国史跡「佐渡金山遺跡大久保長安逆修塔」（大安寺境内）

幕府の金銀山経営の中心人物として活躍しました。慶長18年（1613）、駿河国（現在の静岡県）で亡くなる。死後多大な蓄財等のため様々な罪状により一族・関係者が処刑されました。

## ○大久保長安の金銀山経営

佐渡の代官となった長安は、慶長8年（1603）鶴子にあった陣屋を相川に移転し（翌年完成、後の佐渡奉行所）、相川の道と町割を整備して現在の相川市街地の原形を造りました。また、相川の海岸に港を整備して番所を置き、姫津村には石見国（現在の島根県）の漁師を移住させて、海産に従事も石見姓が多く見られます。



◆「大久保長安像」（大安寺蔵）



◆長安が整備した相川の現在の町並（相川大工町）

六が採用した「運上入札制」を取止め、鉱山を幕府の資金で開発し直接管理運営する「御直山制」と御直山の採掘高を幕府と採掘者とで一定の割合で分ける「荷分け法」を導入して、御直山36か所を定めました。また、イスパニヤ（スペイン）から水銀を輸入し、水銀アマルガム精錬を行ったことが「川上家文書」に記されています。様々な金銀山経営策を打ち出した長安によって、佐渡金銀山は最盛期を迎え、慶長18年（1613）には坑道の数300か所、人口十万人を数えたと伝えられています。

## ○島内に残る大久保長安の足跡

大久保長安は佐渡に多くの足跡を残しています。

相川江戸沢町にある大安寺は、大久保長安から二文字をとって名付けられた寺院で、境内には、慶長14年



◆国重要文化財「小比叡神社鳥居」（小比叡神社）

（1609）に長安の建てた「大久保長安逆修塔」（国指定史跡）が残されています。逆修とは生前に自分の死後の供養をするために建てられたもので、石見銀山に近い大森町の大安寺跡にも同様の石造物が残されています。小木地区の小比叡神社には、慶長13年（1608）に長安の寄進した鳥居（本殿・鳥居・国重要文化財）が残されています。柱の部分に寄進した日付と長安の名前が彫られたこの鳥居は、九州で見られるものと同じ形で、日本海側では最北端のものといわれています。また、小木町の木崎神社（本殿・県指定有形文化財）は、金銀輸送の安全を願い、慶長14年（1609）に大久保長安の寄進によって創建された神社で、境内地にある元宮と呼ばれる場所が最初に木崎神社が建てられた場所といわれています。

◆教育委員会 世界遺産・文化振興課  
☎27-4170

